

については、間伐材のえ、伐採後の再植林とバイオマス利用に加鳥獣害対策を図る考え

防音工事の木製窓補助など

各省庁から前向きな回答

ウッドレガシー推進協の要望活動

木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会(東京都、原口博光会長)は1日、昨年11月30日に木の総合文化(ウッドレガシー)を推進する議員連盟(衛藤征士郎議連会長)と行った国土交通省などへの要望活動「第4回要望活動発表会」の「民官政合同会議」について、各省庁からの回答を公表した。



第4回要望活動に対し、各省庁から回答があった(左から3番目が原口会長)

防音用窓サッシについて、国土交通省航

を示している。

できることを前提に、素材にかかわらず使用可能とするような建具仕様の改訂を検討していきたい」との回答を得た。

また生産時における1次エネルギーが極端に低い商品に対する助成金の要望については、「木製窓は一般的にアルミ製の窓より大幅

に省エネ性能が高く、断熱性能も高いと承知している。木製サッシの窓を活用しているものなど、高い省エネ性能を有する住宅、建築物を整備する事業に対する支援を行っている(国土省住宅局住宅生産課)、「既存住宅の断熱リフォームを推進するため、次世代省エネ建材の実証支援事業」を通じ、導入支援を行っている(経済産業省)など、各省庁から要望への前向きな検討を行う旨の回答が多かった。

窓など様々な分野から日本の木材を活用するとともに、建築技術の発展につながる企業が新たに参加している。木材産業に従事している方々に国産材を使っていこうという動きが広がっている。個別企業では要望が難しいなか、当協議会を通じて

要望活動をする事で、行政側でも改善が図られ、内容などについて積極的に検討してもらっている。当協議会では今後も社会貢献の志がある人々が集い、木材利用の促進、木材産業の発展に必要な要望や改正を訴えていきたい」と話している。